

令和 6 年農業産出額（広島県）について

1 要旨

令和 7 年 12 月 23 日に農林水産省が公表した、令和 6 年農業産出額（都道府県別）における広島県の概要を報告する。

2 概要

(1) 調査期間

令和 6 年 1 月から令和 6 年 12 月までの 1 年間。

(2) 前年との比較

ア 全体

広島県の令和 6 年農業産出額は、米、野菜、果実の各分野において、産出額が増加するとともに、野菜及び果実の産出額は、それぞれ過去最高となり、前年（1,448 億円）と比較して 92 億円増加し、1,540 億円（6.4%増）となった。

イ 分野別

(ア) 米

主食用米は、全国的な高温障害等により精米歩留まりが悪かったことから供給量が減少したことに加え、インバウンド需要など消費量が増加したことにより、民間在庫量が急激に減少して米価が上昇したため、前年（247 億円）と比較して 130 億円増加し、377 億円（52.6%増）となった。

(イ) 野菜

キャベツやほうれんそうなどは、春先の低温と夏の猛暑の影響で生産量が減少し、品薄のため価格が上昇した。一方、トマトや青ねぎなどの施設栽培品目は、他県産が猛暑などの影響により品薄になる中でも、高温対策技術などを活用して栽培したことで、安定した生産量を確保できた。この結果、生産額は前年比 13 億円増の 308 億円（4.4%増）となった。

(ウ) 果実

みかんは夏の猛暑、なしは害虫の影響により生産量が減少し、全国的に両品目とも品薄のため高値で推移した。この結果、生産額は前年比 4 億円増の 171 億円（2.4%増）となった。

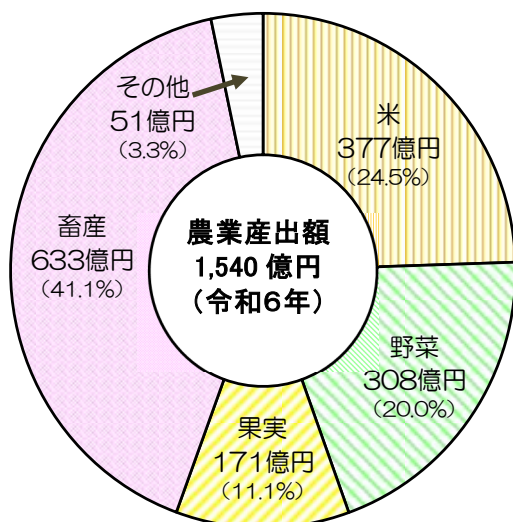
(エ) 畜産物

鶏卵については、令和 4 年度に発生した高病原性鳥インフルエンザの影響により減少した生産量が令和 5 年度以降回復傾向で推移したことに伴い、価格が高騰した前年（361 億円）と比較して 72 億円減少し、289 億円（19.9%減）となった。

また、肉用牛については、令和 2 年から 3 年にかけて実施された国の増頭支援事業等により頭数が増加した和牛が出荷時期をむかえ、令和 6 年に出荷頭数が増加したこと等から、前年（77 億円）と比較して 5 億円増加し、82 億円（6.5%増）となった。

なお、畜産物全体の産出額については、前年（691 億円）と比較して 58 億円減少し、633 億円（8.4%減）となった。

【農業産出額内訳】



【品目別産出額上位 10 品目】

	品目	産出額	(参考) 令和 5 年
1 位	米	377億円	247億円 (2 位)
2 位	鶏卵	289億円	361億円 (1 位)
3 位	豚	151億円	146億円 (3 位)
4 位	肉用牛	82億円	77億円 (4 位)
5 位	生 乳	69億円	59億円 (5 位)
6 位	ね ぎ	55億円	48億円 (6 位)
7 位	トマト	45億円	44億円 (7 位)
8 位	ぶどう	40億円	39億円 (9 位)
9 位	みかん	34億円	40億円 (8 位)
10 位	ブロイラー	24億円	22億円 (―)

※ 色付きの品目は、前年度から増額となっているもの

3 農業産出額の推移

平成 22 年まで、米の産出額の減少に伴って全体の産出額は減少傾向であったが、野菜、果実及び畜産の産出額の伸び等により、増加傾向に転じている。

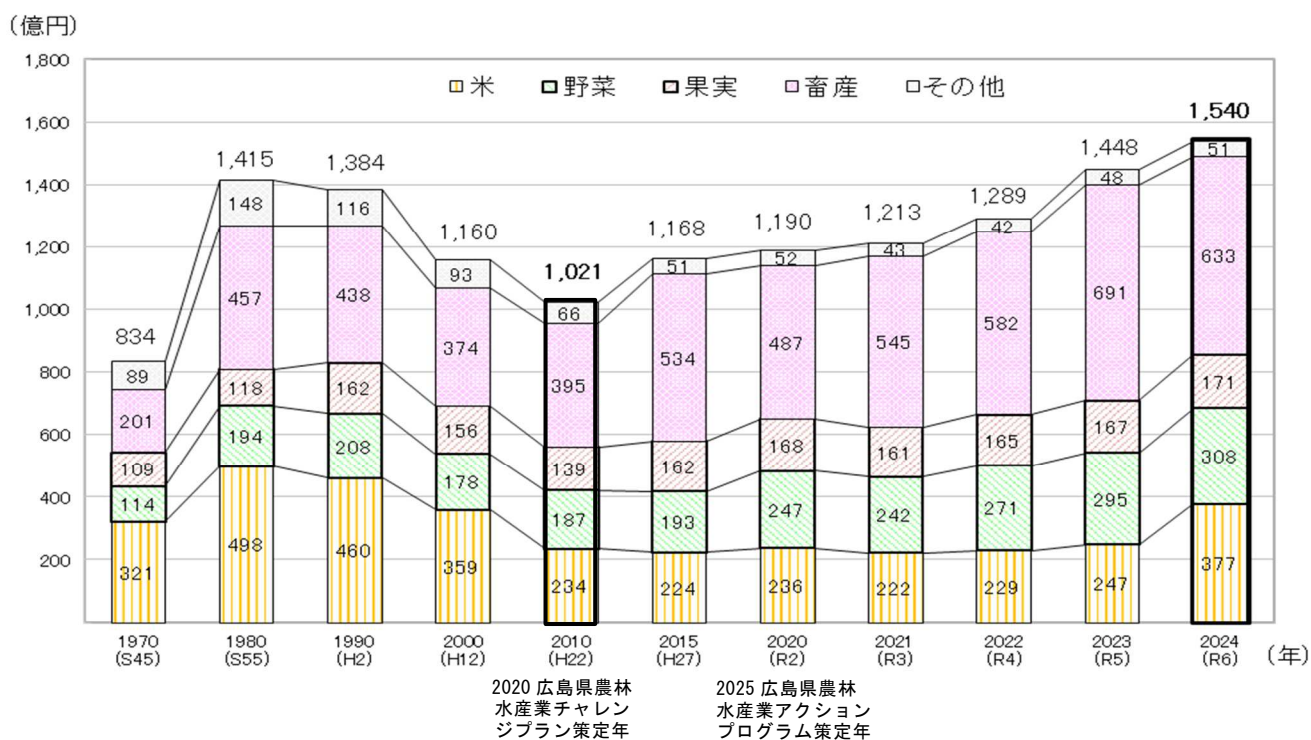
野菜の産出額は、平成 22 年の 187 億円から 308 億円（対 2010 年比 64.7%増）、果実の産出額は、平成 22 年の 139 億円から 171 億円（対 2010 年比 23.0%増）となり、畜産についても平成 22 年の 395 億円から 633 億円（対 2010 年比 60.3%増）となった。

農業産出額全体では、平成 22 年の 1,021 億円から 1,540 億円（対 2010 年比 50.8%増）となっている。

また、2025 農林水産業アクションプログラムにおいては、畜産を除く「農業生産額」を指標として設定しており、令和 6 年度の目標値 732 億円に対し、実績は 907 億円となった。

なお、令和 5 年から 6 年の農業産出額の大幅な増加は、米をはじめとした品目の単価高も影響している。

【農業産出額の推移】



《参考：全国における農業産出額の推移》

(兆円)

